

とうごうだい

## 東郷台遺跡 - 奈良・平安時代に川原井に鎮座した古代寺院 -

東郷台遺跡は、平岡公民館から北東に約 4 km、標高約 80～85mの台地に位置します。ゴルフ場建設に伴い、昭和 59 年に発掘調査が行われ、調査の結果、建物 6 棟、竪穴住居 8 軒などが発見されました。

発見された遺物の中には「四佛」「寺」と書かれた墨書土器（墨で書かれた文字や絵が残っている土器）や、瓦塔（木造建築物の塔を真似て作られた土製の小さな塔）などの仏教関係の遺物、瓦が発見されることから、古代寺院であったと考えられています。

建物跡の 1 棟は、四面に庇（建物の外側に張り出して付けられた小屋根）を持ち、掘立柱建物（柱を直接地面に埋めた建物）から礎石建物（柱の下に基礎となる石が置かれた建物）に建て替えられた痕跡が見られます。この建物を中心に、一対となる小規模な掘立柱建物が並んで建てられています。四面庇付建物を中心に 2 棟の掘立柱建物が並んで建つという古代寺院の姿を復元することができる大変貴重な遺跡です。



建物の発見状況  
（白線が柱跡）



東郷台遺跡からの出土品